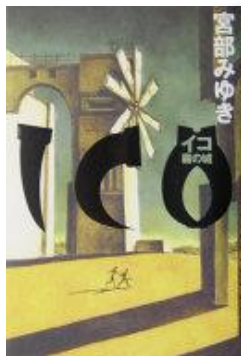


秋の夜長に読む おすすめのゲーム小説



秋になり、夜がだんだんと長くなりました。「読書の秋」という言葉がありますが、読書よりゲームが好き！という人も多いかもしれません。

今回は、ゲームをプレイする感覚で、読書の冒険が楽しめるファンタジー小説を3冊ご紹介します。



『ICO～霧の城』
宮部 みゆき／著
講談社

『ソロモンの偽証』などの著書で知られる直木賞作家の宮部みゆきさんは屈指のゲーム好き。主人公の少年イコが、少女と共に霧の城からの脱出をめざす「ICO」というテレビゲームの魅力にひかれ、宮部さんが小説化した作品です。

「ICO」のゲームながらの展開のワクワク感と、小説独自に描かれた、主人公たちの過去の物語などが楽しめます。



『指輪物語』
J. R. R. トールキン／著
評論社

遙か昔の時代、架空の世界である中つ国を舞台に、主人公のフロドと仲間たちが、悪の王を滅ぼすため、大きな力を持つ指輪を破壊するために冒険を繰り広げる物語。「ロード・オブ・ザ・リング」として映画化もされました。人間だけでなく、ホビットやエルフなどさまざまな種族が登場し、魔法が実在するという設定は、さまざまなRPG（ロールプレイングゲーム）の世界観に引き継がれています。



『新ロードス島戦記』
水野 良／著
角川書店

呪われた島であるロードス島を舞台として、剣と魔法の世界で英雄たちが活躍するファンタジー小説。ゲーム機などを使わずに、参加者が協力して一つの物語を作り上げていく対話型のゲームが元になっているので、プレイヤー感覚でストーリーを楽しむことができます。

世界観を共有する作品として『ソード・ワールド』『クリスタニア』など多くの作品が生まれています。

Teens Joy

10代のみなさんへのおすすめ図書リスト



No.53 2023.10

清瀬市立図書館

三国志が好き！

渡邊 義浩／著
岩波書店



以前より、多くの小説、漫画や映画、ドラマ、ゲームなどでも取り上げられる「三国志」。諸葛亮(孔明)、劉備(玄德)をはじめとする、有名な人物たちも「三国志」に登場します。

そもそも「三国志」の起こりとは？「赤壁の戦い」とはどんな戦いだったのか？呂布の強さの真実とは？ 故事成語の「泣いて馬謖を斬る」のエピソードとは？どこかで耳にしたことがある言葉や人物を、当時の背景や戦況を交えてわかりやすく解説している本です。中には、多くの作品で取り上げられている分、一部の人物や出来事は史実とイメージが違って驚くこともあるかもしれません。

タイトル通り、自分の好きな部分から「三国志」の世界に触れてみてください。

〈下宿図書館 菅〉

「地理なんてよくわからない」「勉強する意味ないでしょ」と思う方は多いのではないのでしょうか。地理は環境や自然災害、国際関係など身近なものからグローバルなものまで幅広く関わってきます。

「東大入試の地理」と聞くと恐ろしく難しいのでは、と思うかもしれませんが、ですが、かみ砕いていくと小学生ぐらいの一般知識があれば解ける問題もあります。「なんとなく聞いたことのある単語」がいくつか出てきますが、そこから順番に考えると解答を導き出すことができます。

また、「戦争」「値上げ」など、最近耳にすることが多い単語も、考えていくと身近な出来事につながってきます。東大入試の問題を見ながら、地理が私たちにどのように関わってくるのが学べます。

〈中央図書館 石井〉

小学生が解いた！東大地理

公文国際学園中部・
高等部チーム地理／編
山川出版社



私の職場はサバンナです！

太田 ゆか／著
河出書房新社



普段生活をしている中で、「嫌な気持ち」になることはありませんか？「嫌な気持ち」になった時、みなさんはどう過ごしていますか？

嫌な気持ち、つまりネガティブな気持ちを持つことは私達みんなに共通して起こることです。それにより気持ちが揺れてしまうことはみなさんも経験があるのではないのでしょうか？

本書はそんなネガティブの性質や対処方法について、経験に基づく具体例を挙げながら記述してくれています。ネガティブな気持ちに振り回されることなく今までより上手に対処していける手助けになってくれる本です。この本を通じてネガティブな時の暮らしの中で役立つ知識、私たちを楽しんでくれる工夫について、学んでみませんか？

〈駅前図書館 高田〉

嫌な気持ちになったら、 どうする？

中村 英代／著
筑摩書房



サバンナについて知っている人は多いと思いますが、実際に現地に行ったことがある人は皆無に等しいと思います。そのサバンナの中で実際に生活しながらサファリガイドをしている方が書いたのが本書です。

内容はまさにガイドツアー、サファリガイドになるまでの経緯からはじまり、仕事の中で出会った動物たちに関する話が続き、サバンナを取り巻く問題と取り組みの内容で締めくくられます。

「問題と取り組み」というと難しく堅苦しい話と感じがちですが、そこに至るまでの動物に関するエピソードが親しみやすく、そのルートを進んだ先であれば自然と読み進められます。

この一冊を通してコンパクトなサファリツアー、いかがでしょうか。

〈駅前図書館 江頭〉